

**A small step
makes a big
difference.**

**The biggest
challenge is
in yourself!**

**夢実現！ <小中連携>
英語授業改革への挑戦**

**Dream it!
Believe it!
Achieve it!**

小中連携 英語授業改革への挑戦

～限らない教師の挑戦（ETC：Endless Teacher's Challenge）～

I 小中連携した音声重視のトピック（題材）導入

英語の学習において、トピック（題材）の導入を教師主導の説明に終始すれば、児童生徒にコミュニケーション力の育成は期待できない。一方、英語の音声面の特徴に留意させながら、児童生徒に自然な英語を何回も聞かせ、英文や単語、更には内容を guess（推測）させる実践を重ねれば、児童生徒のコミュニケーション力育成は大いに期待できる。

そこで、小中学校の共通実践として、音声を重視したトピック（題材）の導入について提案する。まず、リスニング練習を行う前に、児童生徒に対して、次のような聞き取りのポイントを説明する。

- (1) リスニングのときは、すべての単語を聞き取ろうとせず、ストレスの置かれるキーワード等に焦点化して聞き取ること。
- (2) 聞き取れた単語を基に、今日の話の内容について推測すること。

次に、児童生徒に対して、リスニングの手順について具体的に説明する。

《 リスニングの手順 》

- ① 音声を自由に聞いて、キーワード等を含めた英語音声を聞き取る練習をする。
- ② 次に「何を聞き取るか」明確な課題（タスク）を知って聞き取る。
 - ・はじめの聞き取りでは、話の大まかな内容をつかむことに心掛ける。
 - ・2回目からは、少しずつ詳細な内容について焦点化し、聞き取る。
- ③ 聞き取った内容をお互いに発表しあって共有する。
- ④ 聞き取った単語等から本時のトピック（話題）を推測する。
- ⑤ 必要に応じて、ピクチャーカードや写真等の視覚教材を見て聞き取る。

この方法におけるリスニングのねらいは、児童生徒に聞き取りのポイントを変えながら、何回も英語を聞くチャンスを与え、自然に「英語の音」に慣れさせることと、聞き取れた単語や文等を活用して、何とかトピック（話題）をつかもうとする技能や態度を育成することである。

この実践に小中連携して取り組むことにより、児童生徒は試行錯誤を繰り返しながら、英語のリスニングに挑戦するとともに、自然に英語のリズムに親しむ機会を得ることになる。このリスニングの訓練が、後の話すこと・読むこと・書くことの技能習得にもつながり、児童生徒の英語のコミュニケーション能力育成においても大いに有効であると考えられる。

2 小中連携した英語学習の具体的戦略

ここでは、1 小中連携したトピック（題材）の導入を踏まえ、児童生徒の実践的な英語力を育成するために、小中連携した英語学習の具体的戦略について、以下の(1)~(5)を、小中連携における共有・実践すべき具体的戦略として提案する。

《小中連携した英語学習の具体的戦略》

(1) 「音声から文字へ」の流れを基本とした実践（小中連携で一貫した指導の流れを）

- ① 小学校では、Visual Aids（絵カード・写真）と音声を中心に英語活動を実施する。
- ② 小学校の音声指導では、チャンツ等を活用し、英語のリズムに慣れさせる。
- ③ 中学校においても、Visual Aids と音声で学習した後、文字につなげて指導する。
*授業で文字が先行しないように！ALT やチャンツで英語音声に沢山触れさせる！

(2) 英語のリズムを中心に据えた実践（英語のリズムを意識させて授業に取り組む）

- ① 英語と日本語のリズムの違いを意識させ、リスニングやスピーキングに生かす。
- ② 英語特有の発音・リズム等（音声のポイント）を練習する時間を必ず位置づける。
- ③ 発話の練習（個別やペアワーク等）では、英語のリズムを意識して取り組ませる。
*英語では単語や文に強勢が置かれ、独特のリズムができることを体感させる！

(3) 場面をイメージ化した実践（場面をイメージ化させて英語活動に取り組む）

- ① 英語をどんな場面で、どのように使用するか、具体的なイメージ化を図る。
- ② 発話の練習では、実際の場面を想定して英語活動に取り組ませる。
- ③ キーワードと資料等を有効に使って、何とか相手に伝えようとする態度を育てる。
*どんな場面で、どんな英語表現ができればよいか、行動目標を明確に与える！

(4) 個人の発話力を鍛える実践（場面と英語のリズムに留意させ練習に取り組む）

- ① モデルを聞きながら、一斉練習をする。
- ② 各人で言える部分と、言えない部分をチェックする。
- ③ 特に言えない部分に注意して、再度モデルを聞きながら、一斉練習をする。
- ④ 再度、各人で言えるかどうかをチェックする。
- ⑤ ペアやグループで楽しく練習する。（一人が日本語で言って、一人が英語に直す等）
- ⑥ まとめとしての一斉練習をする。
*場面と英語のリズムに留意させ、生徒が自信を持って使えるようになるまで練習する！

(5) 動詞句の効果的な活用（イメージ化を図り、実際の発話に役立つ動詞句の活用）

日常の英語活動において、動詞句を最大限に活用する。

- ① 動詞句ピクチャーカード、体操、プリントを作成し、日常的な活用を図る。
- ② 作成した動詞句関連グッズをフルに活用し、自然に発話できるように練習する。
- ③ 学習シートにも動詞句の絵等をのせ、分かりやすく楽しいシートを作成し活用する。
*小英活動から動詞句を継続的に活用して、児童生徒のコミュニケーション力を高める。

小中連携によるこの具体的戦略への取組により、児童生徒の実践的な英語力が育成されると考える。

3 小中連携した英語授業の進め方

ここでは、2 小中連携した英語学習の具体的戦略を踏まえ、小中学校の英語指導者が、連携して共有・実践すべき英語授業の進め方について提案する。

原則として、小中学校の英語授業は、(1)~(11)「音声から文字へ」の指導過程で実施する。

ただし、文字に関係する内容については、小学校英語科及び中学校英語科にて取り扱うこととする。

《小中連携した英語授業の進め方：「音声から文字へ」の指導過程》

(1) 授業の始まりに、英語の歌やチャンツ、基本文や対話文の練習など継続的に実施する。

*個人練習、ペア練習等で、前時の学習を思い起こすような活動をさせる。

(2) Warm-up では、本時の展開で使う英語表現や単語をゲーム等で楽しく練習させる。

(3) 新しい表現の導入では、身近な生活場面を設定して児童生徒の興味・関心等を喚起する。

また、実際の使用場面をイメージ化できるようにロールプレイや視聴覚資料等を工夫する。

(4) 導入の聞く活動では、アクティブリスニングを実施して、タスクを与えてキーワードを聞き取らせたり、ピクチャーカードを利用してトピックを推測させたりする練習をさせる。

(5) 英語表現や単語練習では、英語のリズムに留意させるとともに、文化的な情報等も併せて知らせ、楽しく興味を持ちながら、自信を持って言えるように工夫して取り組む。

(6) 英語表現の練習では、絵・イラスト・学習シート等を活用して、実際のコミュニケーション場면을想定させながら、個人練習やペア練習に繰り返し取り組ませる。

(7) 個人練習では英語のリズムに注意し、自信を持って言えるようになるまで練習に取り組ませる。また、Read & Look up や shadowing を徹底して、文字を見て発話することからの脱却を図る。

(8) ペア練習等では、個人練習した表現を使い、キーワードやジェスチャー等を活用しながら、相手を見て何とか伝えようとする実践的な練習をさせる。

(9) 本時で練習した英語表現を、確実に書けるように、声に出して何回も練習させる。

(10) 最後に、音声のみを聞かせ、始業時と比べてどれだけ英語表現が聞きとれるかに挑戦させる。

(11) 指導者自身が、「本時の目標：評価基準」に即して、本時の授業評価をする。

児童生徒も、「本時の目標：評価基準（児童生徒用）」に即して評価させる。

4 おわりに

これからのグローバル社会において、児童生徒は英語をコミュニケーションの手段として使いこなせるようにならねばならない。そのためにも、これまで以上に、小学校外国語活動・英語科と中学校英語科の授業連携を効果的に図り、児童生徒の英語のコミュニケーション力を育むことが求められる。

結びに、この「小中連携した英語教育イノベーションプラン」が、効果的な小中連携の英語教育の連携に一石を投じるとともに、Learning English is a lot of fun! と実感できるような小中連携した英語授業の創造に向かって、一つの **chance** (機会) として、果敢に **challenge** (挑戦) するヒントになり、小中における英語教育が **change** (進化) していくことを心から期待するものである。

A small step makes a big difference.

The biggest challenge is in yourself!

Dream it! Believe it! Achieve it!